

## フィリピン遠征報告記

女子監督 古田 康 (芦屋グリーンランドテニスクラブ)

この度私が指導する選手が選抜された関係で女子監督という大役を任されることとなり、まず自分の役割を確認することにしました。

それは、

- ① 選手を心身ともに健康な状態で無事帰国させること
- ② 各選手の心・技・体のレベルアップに役立つこと
- ③ フィリピンと兵庫県テニス協会の親善を深めること
- ④ 自分自身指導者として幅を広げること でした。

それぞれに達成感・課題点を感じましたので、以下に述べたいと思います。

① 無事帰国させるという点は達成できたのですが、遠征中に体調を崩した選手が数名見られました。原因としては、飲料水・サラダの摂取による腹痛、連日炎天下でのタフマッチによる熱中症等と思われる。選手達はホームステイ先での生活となりますので、食事面の管理は難しいため自己管理が求められます。水道水を一切口に入れないことが大切です。また熱中症対策としては、水分・塩分の適度な摂取、帽子の着用、十分な睡眠等ですが、今回の遠征に関しては試合数の多さも一因になったと考えられます。観光や英語学習等の時間をもう少しとって良かったと思います。

② 選手達には気づいたことをアドバイスしましたが、十分に伝わったかは少し不安です。「引き出し」(特にネットプレイやそれに繋げる展開力)を増やすことと、それを整理する能力(特に重要な局面で)を身に付けることが必要です。そのためにも、日頃から考えて練習に取り組む姿勢が重要です。選手諸君、脳に汗をかきましょう！今回の遠征の練習メニューに関しては、初日の午前中に行われたフィジカル専門コーチによるトレーニング、フィリピンジュニアナショナルコーチによる講義等が有意義でした。対戦相手は、大学生よりトップジュニアのレベルが高かった印象です。また、セブでは男子ジュニアとも試合ができたので、これも良い経験になったと思います。

③ 親善に関しては、フィリピンの方々の方々の友好的なご配慮で何の不安もありませんでした。特に協会の方々、ホームステイ先の方々の方々の気配りには本当に頭が下がりました。これも偏に坂本会長をはじめ兵庫県テニス協会の皆様が長年に渡り培われた友好関係の賜物だと思います。感謝！！

④ 今回の遠征で選手達は日本語の通じない環境の中で、ボディーランゲージや片言の英語で見事にコミュニケーションを図っていました。私自身も日常の会話や、ゲームメイキングはなんとかこなせたのですが、フィリピンのコーチ達ともっと深くテニスに関する熱い談義をするために英語力の向上が必要だと痛感しました。今後真剣に取り組みたいと思います。

最後になりましたが、坂本会長、山本コーチ、神戸新聞の小川さん、選手の皆さん、兵庫県テニス協会の皆様、フィリピンのお世話になった全ての方々、本当にありがとうございました。

